

行政・司法各部門の支部図書館と専門図書館の連絡情報誌

びぶろす—Biblos

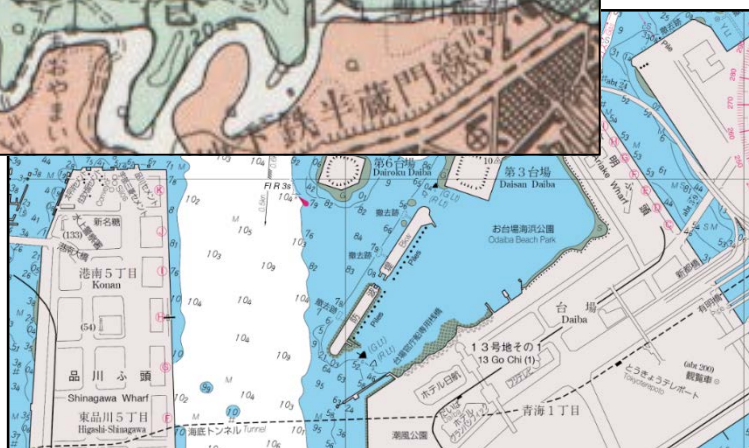
70号（平成27年10月）



上：江戸図（日本橋の辺り）
中：活断層図（神宮外苑の辺り）
下：海図（お台場の辺り）
◆詳しくは特集記事へ！◆



特集
地図を読む



表紙画像：（上） [\[日本橋南北浜町八町堀辺図\]](#) [平野屋平助](#) 東京都立中央図書館所蔵

※江戸図の詳細については特集記事「東京都立中央図書館所蔵江戸図のご紹介」を参照

（中） [都市圏活断層図](#) 「26 東京西北部」の一部

※活断層図の詳細については特集記事「都市圏活断層図の紹介」を参照

（下） [海図第W1065号 東京湾（一部分）](#) の一部

※海図の詳細については特集記事「海図について」を参照

※本誌掲載画像の無断複製・二次使用はご遠慮ください。

70号（平成27年10月） 目次

+++【特集：地図を読む】+++++

特集：『地図を読む』につきまして 2

国立国会図書館地図室について

～地図室所管資料の概要、保管及び利用について～

国立国会図書館利用者サービス部人文課 3

都市圏活断層図の紹介 ～知ることから防災・減災へ～

国土交通省国土地理院応用地理部 三谷麻衣 6

海図について ～安全な航海のための必須アイテム～

海上保安庁海洋情報部航海情報課 8

東京都立中央図書館所蔵江戸図のご紹介

東京都立中央図書館サービス部 西田美奈子 11

+++++

平成27年度専門図書館協議会全国研究集会第5分科会に参加して

～オープンサイエンスと研究データ公開室

支部農林水産省図書館 農林水産政策研究所分館 新井光秋 13

+++【感謝状贈呈】+++++

これまでの支部図書館勤務について

支部宮内庁図書館 三澤和光 15

+++++

【専門図書館紹介】

松竹大谷図書館の広報活動

～クラウドファンディングを経験して 4年目の挑戦～

公益財団法人 松竹大谷図書館 武藤祥子 16

【各国在日図書室紹介】

韓国文化発信基地『韓国文化院』の知の拠点、図書映像資料室

韓国文化院図書映像資料室 小田切祐一 22

平成27年度特集展示「1945—終戦の前後、何を読み、何を記したか」のお知らせ

24

平成27年＜第101回＞全国図書館大会（東京）のお知らせ

26

日誌（平成27年7月～平成27年9月）

27

国立国会図書館刊行物紹介（平成27年7月～平成27年9月）

28

特集（『地図を読む』）につきまして

地図資料はその形態、伝える情報など、普通の「図書」とは異なる色合いの資料です。どのような目的で作られているかにより、様々な地図があります。今号の特集では、そのうちいくつかの主題図について、作成機関、所蔵機関から紹介をしています（特定の主題に重点をおいて作成される地図を「主題図」といいます）。

地図を作成している省庁として、国土地理院、海上保安庁等がありますが、今号では、様々な目的で作成される官製地図のうち、陸の地図として、地震国である我が国では状況を把握しておきたい「都市圏活断層図」、海の地図として、安全な航海に必須の「海図」をご紹介します。

併せて、近代以前の我が国の地図として、東京都立中央図書館の所蔵する江戸図についてご紹介しています。

また、『びぶろす』は Web で刊行していることもあり、サイトで利用できる地図や関連情報にリンクを貼っていますので、各館のレファレンス、ご自身の調べものなどにもご活用いただけるのではないのでしょうか。

なお、当館には地図資料の専門室として地図室があります。同室では様々な地図の提供サービスを行うとともに、保存資料としての地図資料の管理もしていますので、地図室の利用方法に加えて、地図の形態にそった保管方法、利用時の留意点などもご紹介しています。

皆さまの業務の参考となれば幸いです。

（編集担当）

【特集：地図を読む】

国立国会図書館地図室について

～地図室所管資料の概要、保管及び利用について～

国立国会図書館 利用者サービス部人文課

1. 地図室 の資料の概要と保管方法

1) 地図室資料について

国立国会図書館地図室は東京本館4階にあり、国内外の地図と国内の住宅地図を所蔵しています。所蔵資料数は、一枚もの地図約49万枚、住宅地図約6万5千冊です（平成27年3月現在）。

国内の地図は、国土地理院発行の地勢図・地形図を中心に、海図、地質図等、明治以降の政府諸機関作成地図と民間発行の都市地図等を所蔵しています。

外国の地図は、約150か国・地域の地形図のほか、海図、地質図、都市地図等を所蔵しています。

以下、国内の地図を中心に概要を説明します。

住宅地図は、1950年代の終わりに東京23区から刊行され始め、現在は、日本全国のほぼすべての地域をカバーしています。当室では、未発行地域を除く全国域を所蔵しています（地域により所蔵年が大きく異なりますのでご注意ください）。そのうち、市区部の最新版については、地図帳、地図に関する参考図書、目録類、索引図等とともに室内で開架しています。

また、この他に外邦図と呼ばれる陸軍参謀本部、朝鮮・台湾両総督府が作成した昭和20年以前の外地及び旧占領地域の地図を所蔵しており、貴重なコレクションとなっています。

なお、住宅地図を除く地図帳や道路地図等の冊子体の地図については、参考資料として

当室内に開架されている一部を除き、地図室の資料ではなく、図書に分類されておりますので（殆どが本館書庫等に収蔵）、ご注意ください。



地図室

2) 資料の保管方法

次に地図資料の保管方法について説明します。専門資料室で開架されている参考資料を除き、当館資料は温度約22℃、湿度55%程度を目安に、年間を通じて大きな環境変化がないよう管理された書庫内に収蔵しています（「閉架資料」といいます）。

地図資料のほとんどは、地図室所管の書庫に収蔵しています。

収蔵の仕方は資料の形態で異なります。

住宅地図の冊子体の地図は、図書や雑誌と同様に書架に並べて排架しています。住宅地図は利用の多い資料ですので、利用の多い地域のは事前に製本して予め補強するなどの対策を講じています。また、開架している住宅地図は、それぞれの最新版が発行されると入れ替えて新たな閉架資料となります。

一枚ものの地図資料は、形態により大きく二つに分けています。折りたたまれたものは

「折り図」、折らずにそのままの状態になっているものは「のし図」と呼ばれています。「折り図」は、資料への影響が少ない中性紙製の箱に収めて冊子体と同じく立てた状態で保管しています。(写真 1)



写真 1：折り図（書庫内）

「のし図」については、折りたたむと、利用等により折り目から破損する可能性が高いことから、できるだけ折りたたまない形で書庫内に設置したスチール製のキャビネット（引き出し）に収蔵しています。(写真 2)



写真 2：のし図（書庫内）

なお、出納時にはどちらの資料ともクリアケースに収めて移動時の破損を防止するように努めています。(写真 3-1,3-2)



写真 3-1：利用準備の出来た「折り図」



写真 3-2：利用準備の出来た「のし図」

また、資料の中には利用中の破損や経年劣化により補修が必要となるものもあります。軽微な破損は、当室職員が補修していますが、破損や劣化が著しい資料については、当館の資料保存を担当する部署が補修しています。地図資料は大型のものも多く、補修には時間がかかるため、補修待ちの資料も多くなっています。資料が破損している場合でも利用に耐えうると判断した場合は丁寧な取扱いをお願いした上でできるだけ利用提供しています。

その他の予防策として、一枚ものの地図資料のうち、劣化しやすい酸性紙ののし図については、脱酸処理後、入れたままでも複写が可能な樹脂フィルムに封入する処理を進めています（「エンキャプシュレーション」といいます）。

当館の所蔵資料は永久保存資料として後世に伝えるものであるため、このような保管と利用提供を行っています。



大型地図用閲覧エリア

2. 資料の検索・申込み方法

地図資料の検索手段には「国立国会図書館蔵書検索・申込みシステム」(NDL-OPAC)、カード目録、冊子目録及び索引図があります。住宅地図と国内刊行地図については、NDL-OPACでの検索が可能です。外国刊行地図の一部はデータが未入力となっているため、目録や索引図で特定する必要があります。

次に資料の申込み方法について、説明します。支部図書館、専門図書館の方が書庫資料を利用する場合、まず、利用したい資料をNDL-OPACで検索し、請求記号などの検索結果を資料請求票に記入後、カウンターに提出してください。なお、地図室の資料は、他の専門室の資料と同様に館外貸し出しは行っておりません。館内での利用のみとなります。

書庫からの出納作業は、職員が行います。資料の準備ができましたら(20分ほどかかります。)、お名前をお呼びしますので、当館用カードをお持ちください。カードと引き換えに資料をお渡しします。資料利用中は、カウンターでカードをお預かりし、資料返却時にお返しするということになります。

その他、資料に関するご質問やレファレンス等ありましたら、カウンターの職員にお尋ねください。

最後に国立国会図書館では、館内利用サービスや資料のご案内、調べ方等を「リサーチ・ナビ」というページで公開しています。「地図」

に関する [専用のページ](#) (図1) も設けていますので、来館前にご確認ください。事前に調べていただくことで、来館後の利用がよりスムーズになります。是非ご活用ください。



図1：リサーチ・ナビ（例：住宅地図）

(じんぶんか)

都市圏活断層図の紹介～知ることから防災・減災へ～

国土交通省国土地理院応用地理部 三谷 麻衣

はじめに

活断層は日本全国で 2000 以上の存在が確認されています。昨年（平成 26 年）11 月にも活断層による長野県 ^{かみしろ} 神城断層地震¹が発生し、改めて活断層が注目を浴びました。[国土地理院](#)では地表における活断層の位置と形状を詳細に表示した 2 万 5 千分の 1「都市圏活断層図」を作成・公開しており、本稿ではその概要を紹介します。

1. 「都市圏活断層図」作成の経緯と目的

活断層による地震が甚大な被害をもたらした平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災を契機に、活断層に関する詳細な位置情報の整備及び公開の必要性が高まりました。国土地理院では、これに応えるため、「都市圏活断層図」を作成し公開しています（図 1）。

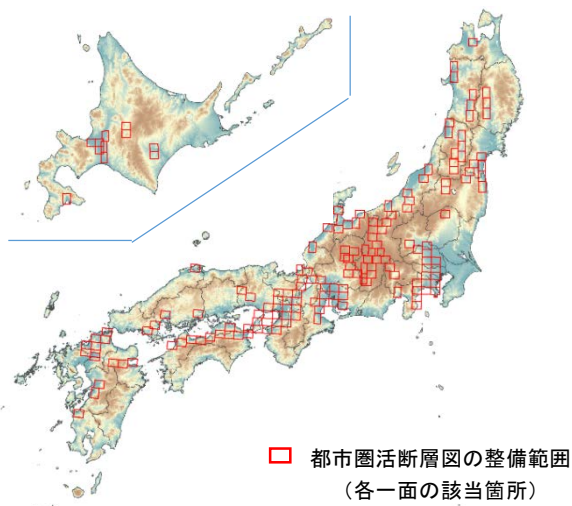


図 1 都市圏活断層図の公開状況

本図は主要な活断層が分布し、地震が発生

した場合に特に被害が甚大になる可能性の高い都市域及びその周辺地域を対象に、活断層研究者の協力のもと作成しているもので、これまでに、169 面を公開しています（平成 27 年 7 月現在）。

2. 内陸型地震と活断層

地球の表面は、板のような「プレート」で覆われており、日本列島をのせている陸のプレート内の岩の層にはたくさんの割れ目があります。通常、割れ目はお互いしっかりかみ合っていますが、ここに「大きな力」が加えられると、割れ目が再び壊れてずれます。この壊れてずれる現象を「断層」活動といい、ずれた衝撃が振動として地面に伝わったものが地震です。この地震を「内陸型地震」といい、地下約 5～20 km の浅い所で起きるため、私たちの生活に大きな被害をもたらします。

そして、「断層」のうち、特に数十万年前以降に繰り返し活動し、将来も活動すると考えられる断層を「活断層」と呼んでいます。

3. 都市圏活断層図の見方

都市圏活断層図では、活断層地形と活断層を評価する上で重要な指標となる地形を分類して表示しており（図 2）、活断層地形については、縦ずれ横ずれなどの活断層の変位の向き、現時点で活断層かどうか明確に特定できるか、「位置やや不明確²」や「伏在部³」などの活動の痕跡の形態などを読み取ることができ

¹ 平成 26 年 11 月 22 日に長野県北部の深さ約 5 km でマグニチュード（M）6.7 の地震が発生した。この地震により長野県で最大震度 6 弱を観測し、被害を伴った。なお、この呼称は長野県による。

² 位置やや不明確：活断層のうち、活動の痕跡が浸食や人工的な要因等によって改変されているために、その位置が明確には特定できないもの。

³ 伏在部：活断層のうち、最新の活動時以後の地層で覆われ、変位を示す地形が直接現れていない部分。

ます。

以下では、活断層による地震被害と都市圏活断層図との関係の例を紹介します。

(1) 地表のずれによる直接被害

内陸型地震の際、地面に「地震断層⁴」が現れることがあります。「地震断層」の上に建物があつた場合は、建物の基礎が断層のずれにより破壊されてしまいます。

(2) 地震の揺れによる地盤被害

地震による地盤の揺れは、一般的に震源からの距離が近いほど強く、遠くなれば弱くなる特徴があります。一方、日本の都市の多くは平野部に広がっており、平野部は柔らかい地層(沖積層)に覆われているために、遠方から来た地震波は岩盤の上にある沖積層によって増幅されて地面の揺れが大きくなります。

図2で緑色で表示されている「沖積低地⁵」及び「扇状地・沖積錐⁶」は沖積層に関連深い地形です。

また、地震による液状化の起きやすい場所と「沖積低地」も関連性が深いものです。

活断層による地震被害は、活断層との距離だけではなく、地形や地盤の影響を強く受けるため、都市圏活断層図では活断層を評価するうえで重要な指標となる地形も分類して表示しており、地盤の概要を推測できます。

(3) 土砂災害による被害

活断層が動いた場合、遠く離れた都市域にも深刻な土砂災害をもたらすことがあります。

都市圏活断層図では、「地すべり」の記号を表示しており、地震が発生した際にその地域の山地・斜面部のうち土砂災害を起こしやすい

い地点がどこであるかを知ることができます。

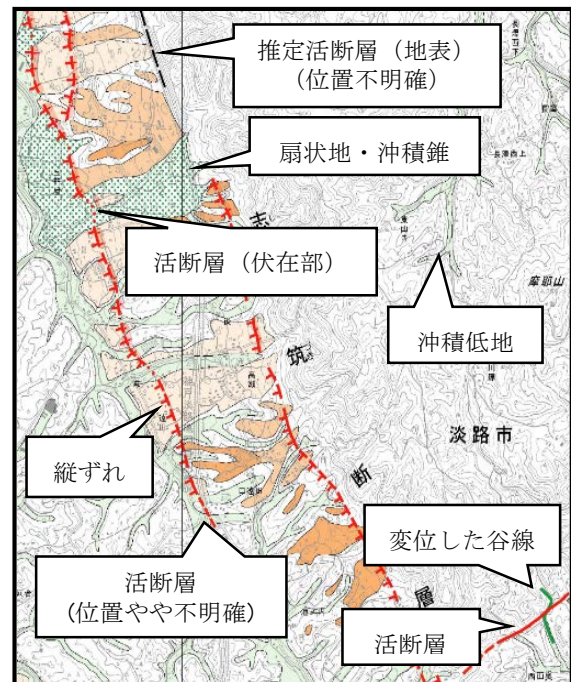


図2 都市圏活断層図
六甲・淡路断層帯とその周辺「洲本」⁷ (一部)

4. 都市圏活断層図の利活用

都市圏活断層図は国土地理院のホームページ内で [閲覧](#) できます。さらに、[断層帯毎の解説書](#)、[利用の手引き](#)、[Q&A](#)なども公開しています。

現在、都市圏活断層図は、地方公共団体のハザードマップや防災マップにその情報が取り入れられたり、被害予測のシミュレーションの基礎資料として利用されています。

おわりに

都市圏活断層図が、少しでも防災・減災の一助になることを願っております。

(みたに まい)

⁴ 地震断層：地震発生の際に変位したことが明らかになっている活断層。

⁵ 沖積低地：数千年前から歴史時代にかけて、海または河川の作用で形成された平坦地。

⁶ 扇状地・沖積錐：河川によって形成された、谷口を頂点とし平地に向かって扇状に開く半円錐の地形。小規模で急傾斜なものは沖積錐とよばれることがある。

⁷ 岡田篤正・石村大輔・杉戸信彦・鈴木康弘・松多信尚(2014)： [1：25,000 都市圏活断層図 六甲・淡路断層帯とその周辺「洲本」](#) 国土地理院技術資料 D1-NO.719

【特集：地図を読む】

海図について～安全な航海のための必須アイテム～

海上保安庁海洋情報部航海情報課

はじめに

[海上保安庁](#)では、船舶の安全航海に欠かすことのできない海図を約800図ほど刊行しており、毎年その1割程度について、情報を更新するため新しく作り直し（改版）、国立国会図書館にも納本しています。本稿では、海図（主に航海用海図¹⁾）の通常の地図とは異なる面を中心に紹介したいと思います。

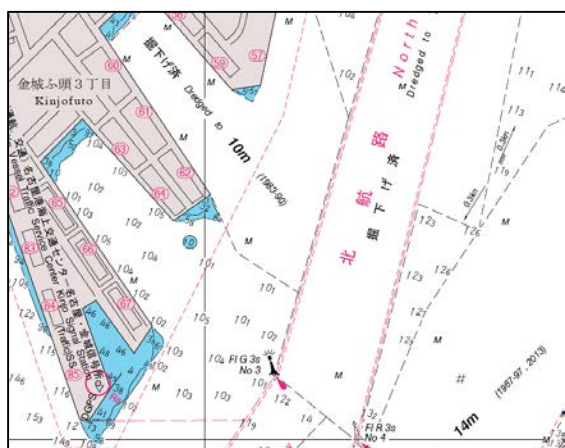


図1：海図の例（名古屋港）

1. 海図とは

海図とは、船舶が安全かつ能率的に航海するために特別に作成された海の地図（主題図²⁾）で、航海計画の策定や航海中の針路決定に必要なさまざまな情報、例えば座礁の危険性を把握するための水深、暗礁、沈船などの情報や、岬や灯台などの航行上の目標物の情報等が記載されています。

【参考】海図記号の例

海岸線	
干出浜・干出の高さ・低潮線	
水深	
干出岩・洗岩・暗岩	
沈船	
漁礁	
灯台・灯標	
領海の限界線	

2. 海図をめぐる国際的枠組み

海は世界とつながっており、日本から世界に、世界から日本に多くの船舶が往来しています。そのため、これらの船舶の安全航海に必要な不可欠な海図は、国際的な枠組みの中で、その公的な位置づけや作製基準などが決められています。

陸上とは異なり海上では、船舶から海面下の状況は把握できず、また航路線や領海線などが海上に引かれているわけではないため、船舶が安全に航海するためには、それらの情報が記載された最新かつ正しい海図を使用することが必須です。そのため、海上人命安全

¹ 航海用海図には紙海図と電子海図があります（本稿は紙海図の説明です）

² 主題図とは利用目的に応じてある特定の主題を表現した地図のこと。例えば、「潮流図」「地質図」「都市計画図」などがこれにあたる。

条約（SOLAS）は、船舶に海図を搭載することを義務づけています。さらに搭載する海図は、政府機関等によって公式に刊行されたものであり、かつ最新の情報に維持されていることが要求されています。

また海図は、世界の色々な国の船舶で利用されることから、航海者の混乱を避けるため、「国際水路機関（IHO）」と呼ばれる国際機関によって記載内容や記載方法が策定されており、国際的な統一が図られています。このため、航海者は、どの国が刊行した海図であってもその記載内容を正しく理解することができるようになっています。

3. 海図と国家の領域

四方を海に囲まれる我が国は、国家領域を規定する限界線が、すなわち領海の限界線となります。国連海洋法条約（UNCLOS）によって、沿岸国は、基線から 12 海里³までの領海を設定する権利を有していますが、この通常の基線⁴は、沿岸国が公認する海図⁵に記載されている海岸の低潮線と規定されています。つまり海図は、安全航海だけでなく、我が国の国家領域を規定するという重要な意義も有しています。

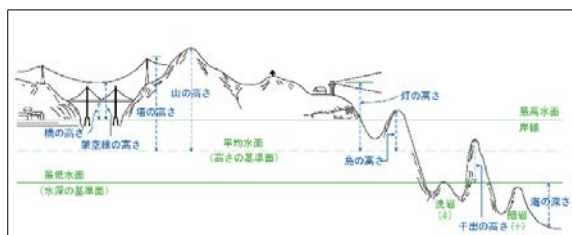


図2：水深・高さの基準面一覧図

なお「低潮線」とは、潮汐によって上下に変動する海面において、最も低い海面（最低水面）になったときの陸地と海面の境界となる線のことです。

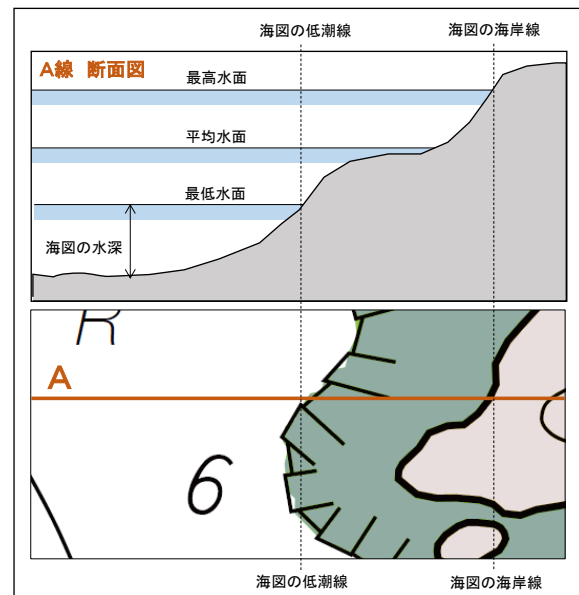


図3：低潮線

4. 海図の最新情報の維持

陸上の地図の場合、最新の情報が必要になればその地図を買い換えることになります。一方、航海の安全に直結する海図は、港湾工事による港の形状変化等によって、その内容を頻繁に更新する必要がありますが、更新の度に新しい海図を刊行し、利用者がそれを買換えるのは合理的ではありません。そこで海図の世界では、航海安全の確保に必須ではあるもののその更新情報が少ない場合には、利用者自らが海図を訂正（小改正）するという方法を採用しています。小改正には、色ペン等を使い手書きで訂正を行う「手記訂正」と、海図の一部分だけが印刷された修正後の図を海図の上から糊付けする「補正図」の2つの方法があります。

³ 1 海里は 1852 メートル。12 海里は約 22 キロメートル。

⁴ 「通常の基線」の他に、「直線基線」「群島基線」などがある。

⁵ 日本の場合、領海及び接続水域に関する法律施行令（昭和 52 年政令第 210 号）によって、海上保安庁が刊行する海図と規定されている。

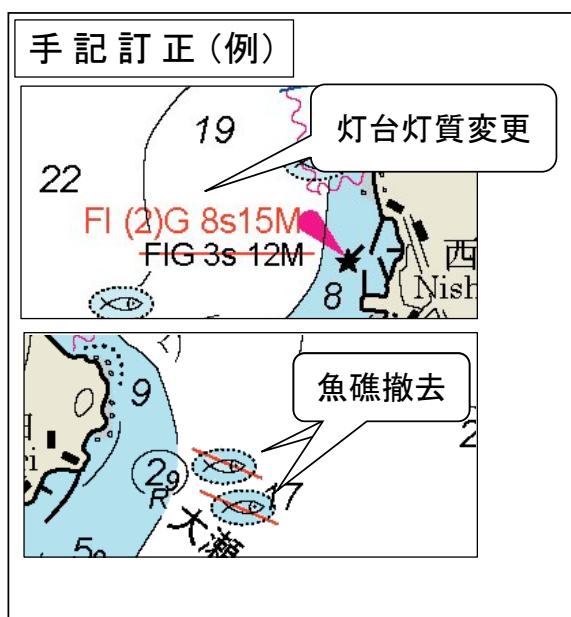


図4：手記訂正の例

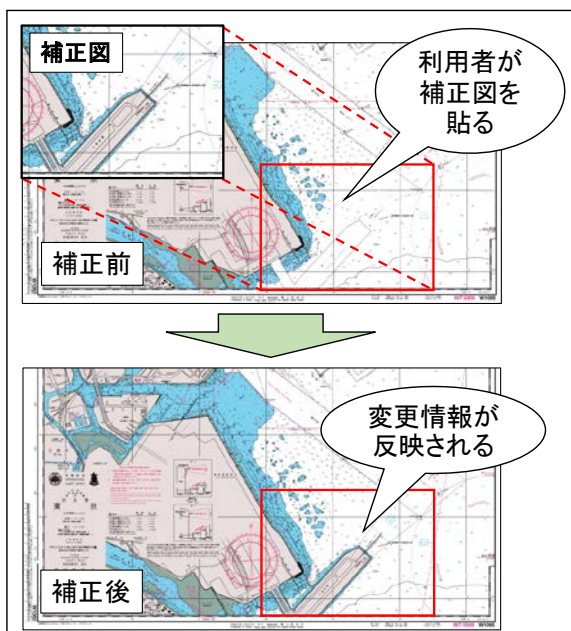


図5：補正図の例



図6：水路通報と小改正通報

なお、小改正に必要な情報は、「水路通報」として海上保安庁から毎週発行されています。水路通報は [海上保安庁のホームページ](#) で入手できます。

水路通報による海図の最新情報の維持は、日本だけが採用している方法ではなく、国際的に標準化された方法です。したがって、各国の海図を何枚も保有している外航船舶の場合、各国の水路通報を取り寄せて、全ての保有海図を最新情報に維持する必要がありますが、航海しながらの維持は大きな負担となっています。そのため世界の大きな港では、船が保有する海図とその最新情報の維持状況をデータベースで管理して、入港のたびに海図の最新維持を行う民間サービスが存在しています。

なお、海底火山の噴火や漂流船舶の発生など、船舶の航行に支障となる緊急の情報提供については、水路通報では間に合わないため、国際的な枠組みで決められた「航行警報」という方法によって、航行中の船舶に無線等で通知しています。

このように、海図の最新情報の維持は航海の安全確保にあたって非常に重要であることから、陸上の地図ではあまり見られない特殊な方法で体系的に対応しています。

おわりに

簡単ではありますが、海図の特殊な側面について紹介しました。少しでも海図に興味を持っていただけると幸いです。

海上保安庁では、今後も船舶の安全航海のため、海を測量し海図を刊行すると共に、最新維持のための情報を提供してまいります。

(こうかいじょうほうか)

【特集：地図を読む】

東京都立中央図書館所蔵江戸図のご紹介

東京都立中央図書館サービス部情報サービス課 西田美奈子

1. はじめに

東京都の図書館サービスは、明治41(1908)年に開設した東京市立日比谷図書館に端を発している。その後、大正天皇即位礼に際し、東京市に下賜された10万円をもとに江戸・東京資料を収集した。これが現在の「[東京史料](#)」で、江戸城造営関係資料(重要文化財)のほか、多数の江戸図も含まれる。これらは、先達の努力により戦火を逃れ、[東京都立中央図書館特別文庫室](#)に引き継がれている。

2. 江戸図の紹介

所蔵資料を代表する江戸図を紹介したい(書誌の最後のカッコ内の数字は請求記号)。

(1) [長禄江戸図](#) 長禄年間(1457-1460)頃
写図彩色 66.2×77.3cm (A10-6)

太田道灌が江戸城を構えた長禄年間の頃を描いたと言われるが、事実関係が証明できないところもあり、後世の擬作とされている。図の中央に城、周辺に村の名前や鳥居を示す記号が書き込まれている。

(2) [慶長江戸図](#) 全 慶長7(1602)年頃
写図彩色 40.3×53.2cm (A11-2)



所蔵のものは弘化2(1845)年の写しとされ、素朴な図だが、信頼できる現存最古の江戸

図とされる。城の周辺のみ描かれている。

(3) [武州豊嶋郡江戸庄図](#) 寛永9(1632)年頃
写図彩色 85.4×118.5cm (A13-2)

三代将軍家光の頃の江戸の様子を描いた、寛永9(1632)年刊行のものの写し。御三家の尾張、紀伊の上屋敷が城郭内にある。幕末の江戸図は、城の部分に「御城」の文字や御紋しか描かれなくなるが、この図では明暦3(1657)年の大火で焼失する天守閣が描かれている。城下は区割りされ、現在の丸の内地域は武家屋敷のため区割りが広く、町人の居住地である日本橋地域は細かいことがわかる。

(4) [新添江戸之図](#) 明暦3(1657)年
写図彩色 121.8×59.5cm (A17-1)

明暦2(1656)年頃の江戸を描いたと思われる写図で、版元、発行年を明記してある。江戸図のほとんどは西を上にした図だが、この図は北を上にした縦長の図で、極めて珍しい。奥書に西南方向を新たに加えたことあり、“新添”とされたゆえんがわかる。明暦の大火前に発行されていて、町並みが変わる前の貴重な図とされている。

(5) [新板江戸大絵図](#) 麹町、日本橋、京橋、内桜田、芝筋迄【寛文五枚図 1】遠近道印作 経師屋加兵衛 寛文10(1670)年 木版手彩 156.0×163.5cm (A19-1)

城下町が発展し、1枚の地図に入りきらなくなり、新板江戸大絵図と称する4枚と合わせて一組となり、寛文五枚図と呼ばれている。5枚を合わせて見ると、明暦の大火後、徳川御三家を城郭内から外に出し、外堀の内側にあった寺院を移動、広小路や火除地を設ける等、防災を観点に町を復興した様子が伺える。

これまで描かれなかった青山、麻布に加え、大火後に発展した本所深川の地域も描かれている。江戸城は輪郭のみの記載になっている。

(6) [江戸図正方鑑](#) 温清軒図 佐藤四郎右衛門 元禄 6 (1693) 年 木版手彩 142.5×153.5cm (A23-6)

元禄時代には多様な江戸図が刊行される。この図は、大名の上屋敷を示すのに、家名は勿論、紋、石高、江戸までの里数、大名櫓のしるし等の情報を加えた。図の周囲には、江戸の小図や各地への町数、大名上屋敷の表など、多くの情報も盛り込んでいる。

(7) [東都番町図](#) 全 狐阡瀬貞雄・麓峰依為質編輯 美濃屋、吉文字屋 宝暦 5 (1755) 年 45.0×64.3cm (特 4304)

現在のように住居表示や表札がなく、探す家を訪ね当てられない人のために切絵図¹が作製され始めた。吉文字屋板は最初の切絵図。東都とは江戸のことで、この地図には、現在の飯田橋、九段、富士見町、番町、麴町、四谷あたりが描かれている。吉文字屋板は地域の異なる 8 枚が確認されており、当館は版が異なるものの、8 枚すべてを所蔵している。

(8) [改正懷中番町絵図](#) 全 村上吾雄誌近吾堂 (近江屋吾平) 嘉永 4 (1851) 年改刊 44.5×63.2cm (特 4306-3)

近吾堂 (近江屋) の切絵図は、地形的には、最も人気のあった(10)の尾張屋板よりも正確だと言われている。川と道だけが淡い彩色で、字が読みやすい。家紋は描かず、坂や辻番を記号で表し、シンプルかつ実用的に作られた。

(9) [外桜田永田町絵図](#) 全 景山致恭図之尾張屋清七 嘉永 3 (1850) 年 45.8×51.5cm (0411-26)

尾張屋の切絵図は、武家屋敷は白、寺院は赤、町家は鼠色と鮮やかな色調で色分けしているのが特徴となっている。上屋敷は紋、中

屋敷は■、下屋敷は●印で区別している。

これまでの切絵図よりも見やすさを重視したが、地形は必ずしも正確ではない。江戸の土産ものとして人気が高く、他の板元の切絵図より多く普及したと言われる。

幕末には城部分に御紋を描くことが禁止され、同じく尾張屋板で 1865 年改正再版刊「[御曲輪内大名小路絵図](#)」(所蔵)では鶴亀が描かれた。発行数が少ないと言われ、貴重な 1 枚。

(10) [日本橋南北浜町八町堀辺図](#) 平野屋平助 嘉永 5 (1852) 年 47.0×49.3cm (0421-7)

平野屋板は、各図を重ね合わせれば 1 枚の地図になるほど正確と言われる。

縮尺も方位も正確さを重視したが好まれなかったのか、刊行予定の 40 枚のうち、3 枚で終えたようである。(当館では 3 枚とも所蔵。)

3. ウェブでの公開

江戸図を含む江戸・東京関係資料約 24,000 点をデータベース「[TOKYO アーカイブ](#)」により公開している。画像を使用したい場合は、[電子申請](#)で申込むことができる。

4. さいごに

これらの江戸図を見比べると、小さな農村だった江戸が、入り江が埋め立てられ、上水が整備され、お城を中心に武家屋敷や町人地が形成され、その範囲をどんどん広げていったことがわかる。幾度の火災をも乗り越え、防災面等の機能強化を行いながら、人々がどのように逞しく町づくりを進めていったか、思いを馳せて地図を見ると、まるで自分が江戸時代に飛んでいったかのような感覚になる。

今回は江戸図をご紹介したが、明治時代以降の東京の地図も多く所蔵しており、ぜひご利用いただきたい。

(にしだ みなこ)

¹ 江戸時代～明治前期の詳細な絵図の名称。地域別、地目別に区切って作られた。

平成 27 年度専門図書館協議会全国研究集会第 5 分科会に参加して

～オープンサイエンスと研究データ公開

支部農林水産省図書館 農林水産政策研究所分館 新井 光秋

1. はじめに

今年度も [標記研究集会](#)（以下、「本研究集会」という。）の第 5 分科会に参加したので、その概要を報告いたします。昨年度に引き続き開催場所は [機械振興会館](#)（東京都港区芝公園）で、晴天の下、東京タワーを見上げる感じで会場入りでき、気分も良い感じに高揚して臨めました。

2. 第 5 分科会「オープンサイエンスと研究データ公開」（3 名の講師による報告）



第 5 分科会の様子

最初に [科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター](#) の林和弘氏¹から「オープンサイエンスの動向とこれからの研究データ」と題したお話を伺いました。

オープンアクセスは 1990 年代から始まった電子ジャーナル化からの大きなパラダイム転換であり、論文の「電子化」からプラット

フォームの活用や研究活動のオープン化と研究「成果」の共有・利活用等においてもオープンサイエンスの考え方が浸透し始めています。これまでの「図書館と出版社の局所的利害」を凌駕するコンセプトであり、研究活動のオープン化が「最終形」であることを図書館への示唆も交えて報告されました。

農林水産政策研究所分館も農林水産省の試験研究機関内の専門図書館であり、この報告はデータリポジトリの問題を喫緊に抱える公的情報機関にとって将来のビジョンを見通せる大変有意義なものでした。

次に [京都府立総合資料館](#) の小森浩一氏から「東寺百合文書のデジタル化とウェブ公開」と題して御報告いただきました。

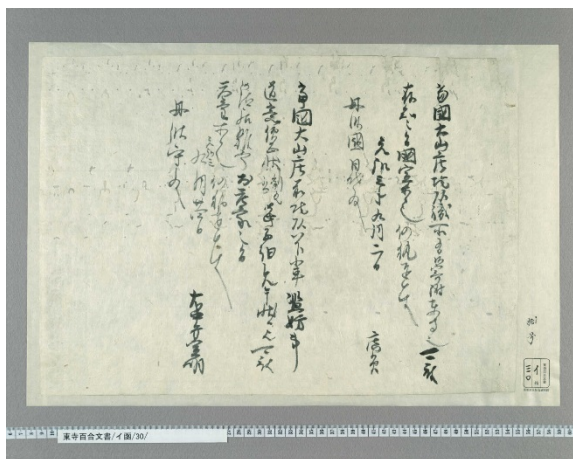
京都府立総合資料館は昭和 38 年に開館され、「図書館機能」、「文書館機能」及び「博物館機能」を兼ね備えた総合施設であり、平成 29 年度に向けて更に京都府立大学文学部・同大学附属図書館等との複合施設を建設中とのことでした。

「東寺百合文書」（とうじひゃくごうもんじょ）は、約 19,000 点（約 25,000 通）という文書数もさることながら、「代表的な中世古文書」ということで、「重要文化財」（昭和 55 年）及び「国宝」（平成 9 年）に指定されているとのことでした。更にユネスコの世界記憶遺産にも推薦され、現在はその登録の可否待ちと

¹ 日本における電子ジャーナル事業の確立と宣伝活動の先駆者であり、SPARC Japan（国際学術情報流通基盤整備事業）のメンバー。日本学術会議の元会員。

のことで、その史料価値に驚嘆しました。

本文書は受け入れ（昭和 42 年）後、マイクロフィルム化や修理事業を経て、平成 25 年にはデジタル化事業を開始し、平成 26 年に全ての文書のデジタル化を終えたとのことで、担当者の多大な苦労をうかがわせるものでした。ここで紹介されたデジタル化の方法等（高画質、全点目録のほか、和暦・西暦・キーワード検索可、Web 上のコンテンツは原則クリエイティブ・コモンズ²⁾は専門図書館には少なからずあるであろう古資料（文書含）を将来電子化する際に大いに役立つものであり、大きな知見を得ることができました。



後醍醐天皇繪旨案「東寺百合文書 WEB」

最後は、筆者と同じ農林水産省の試験研究機関であった（現在は国立研究開発法人）[国際農林水産業研究センター](#)の林賢紀氏の「研究データの発信に向けて：『ホームページによる情報発信』の次を考える」と題する報告でした。

国内における科学技術情報流通の基準であ

る「[科学技術情報流通技術基準](#)」と、G8 の下に設置されている政府高官グループ（GSO）において合意された「オープン研究データに関する 5 原則³⁾」の 2 者共通の要素をもとに、研究所で求められる情報発信について「パパイヤの品種」や「屋内型エビ生産システムで飼育されたバナメイエビのおいしさ」などを例にとり、研究と成果の公開方法の一例を示していただきました。

筆者と同じ農林水産省関連の研究機関の専門図書館ということもあり、「研究成果の発信」等で共通の問題点が多数あり、大いに参考になりました。

3. おわりに

今年度は、午後の第 5 分科会のみに参加でしたが、相変わらず本研究集会はクオリティーの高い講師から情報が得られる場となっていたと感じました。

専門図書館員は昨今、人員・経費削減等で多忙を極めていると思いますが、大半の分科会が盛況だったと聞きました。専門図書館員が日頃感じている問題点等をタイムリーに取り上げていただいているため、例年参加者が多いのではないかと思います。本研究集会

は、世相に応じた専門図書館員の育成等の観点からますます重要な意味を持つと考えます

最後に御講義いただいた講師の方をはじめ、お会いできた多くの参加者の方々に深く感謝する次第です。

（あらい みつあき）

² クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（CC ライセンス）を提供している国際的非営利組織とそのプロジェクトの総称。インターネット時代のための新しい著作権ルールの普及を目指し、様々な作品の作者が自ら「この条件を守れば私の作品を自由に使って構いません。」という意思表示をするためのツールであり作者は著作権を保持したまま作品を自由に流通させることができ、受け手はライセンス条件の範囲内で再配布やリミックスなどを行うことができる。引用：<http://creativecommons.jp/licenses/>

³ 「容易に探せること（discoverable）」、「容易にアクセスできること（Accessible）」、「容易に理解できること（Understandable）」、「容易に管理できること（Manageable）」、「人材（People）の確保」の 5 つ。出典：White Paper: 5 Principles for an Open Data Infrastructure Draft v2.0, 21 May 2013:G8 Global Data Infrastructure WG

これまでの支部図書館勤務について

支部宮内庁図書館 三澤 和光

本年 8 月 25 日に、国立国会図書館長より支部図書館職員として永年の勤務に対して感謝状をいただきました。

平成 17 年 4 月に支部図書館に配属されて以来、図書館勤務が 10 年以上になったことの驚きとよく 10 年勤めたという思いがあります。

宮内庁図書館は、宮内庁職員のみを対象とした図書館です。

当館は「北桔橋門」近くの皇居内江戸城天守閣跡東側にある宮内庁書陵部庁舎に本館があり、皇室関係資料の専門図書館として、図書から雑誌記事まで、皇室関係資料の収集整理に努めています。併せて宮内庁の業務遂行に必要な参考資料を整備し、職員の利用に供しております。なお、書陵部には図書館図書の他に皇室や公家などに伝えられてきた古典籍や古文書などの図書のほか、明治以降に宮内省・宮内府・宮内庁が作成した特定歴史公文書等があります。

現在、私は、「坂下門」近くにある宮内庁庁舎内の宮内庁図書館分室に勤務しております。分室は本庁舎内職員のために設けられ、共同利用できるものを中心に収集しています。

皇室関係図書・百科辞典・人名辞典等の辞典類、地図・人事興信録・新聞縮刷版・政府刊行物・法律書・図鑑類を中心に約 1 万冊の蔵書があり、日本十進分類法を基に分類整理し、排架しております。

業務上必要とならない限りは余り関心を持たれない図書が多いですが、簡単な調査に必要な図書は皇室関係を中心にそろっている、ちょっと変わった図書館です。

私は、配属前の平成 15 年に病を得て、1 年間の療養の後に復職して図書館勤務となりました。現在も病と付き合いながらの図書館分室勤務で、高い書棚にある書籍には手が届かなかったり低い書棚にはしゃがめず対応が難しいところもあつたりしますが、他の図書館員の方々の手助けと来館者の方のご理解で何とか勤務しております。

また、配属当初は、来館者が書籍を探しにきてても、なかなか見つからず諦めて帰ってしまわれることもあり、非常に悔しい思いもしました。この頃は、ようやく来館者から探している書籍名を聞いただけで、大体どの書棚付近にあるかわかるようになりました。少しでもスムーズに見つけられるよう、日々書籍の確認をしております。

また、配属当初は、NDL-OPAC による検索・申込みもなかなか要領を得ませんでした。ようやくこの頃は、スムーズに申し込めるようになりました。

貴重な体験として印象深いのが、中央館にあたる国立国会図書館の研修で図書館を見学した国会や最高裁判所です。普段なかなか見られない立法や司法の場を見ることができ、貴重な体験をさせていただきました。

最近ようやく図書館員らしくなれたかなと 10 年間の重みをひしひしと感じております。最後になりましたが、この 10 年間、中央館及び支部図書館職員の方々にはご支援、ご指導を賜りまして、誠にありがとうございました。

(みさわ かずみつ)

【専門図書館紹介】

松竹大谷図書館の広報活動

～クラウドファンディングを経験して 4 年目の挑戦～

公益財団法人 松竹大谷図書館 武藤 祥子

【松竹大谷図書館について】

[松竹大谷図書館](#) (以下、「当館」といいます。)

は、[松竹株式会社](#) 創立者の一人、大谷竹次郎の文化勲章受章を記念し、昭和 31 年、演劇や映画に関する貴重な資料を後世に残し一般に公開したいという大谷の想いを形にして設立された、演劇・映画専門の私立図書館です。

昭和 33 年の開館当時は約 2 万点だった資料も、今では総数約 45 万点にも及んでおり、年間約 8 千点の資料が増加しています。演劇の上演台本や舞台写真、映画のシナリオやポスター、スチール写真などの市販されていない資料や、販売時期を過ぎると入手困難な劇場プログラムなど、当館ならではの所蔵資料を、閲覧室にて一般公開しています。



松竹大谷図書館の所蔵資料

当館は平成 23 年 6 月に公益財団法人へと移行登記をしましたが、その事がきっかけとなり、平成 24 年 9 月に初めて、ネットで広く支援を募るクラウドファンディング(以下、「CF」といいます。)に取り組むことになりました。それまでは、自館の Web サイトでの告知やニュースレターの発行以外、特に広報

活動を積極的に行うわけでもなく、「知る人ぞ知る図書館」でしたが、CF のプロジェクトを通じた活動が広報となり、北は北海道から南は鹿児島まで支援者を広げることができました。また、それだけでなく、最近ではデジタル化にも積極的に取り組む図書館として、認知されるようになってきています。

本稿では今回で 4 回目となった CF を通じ、当館がどのように広報に取り組んできたか、報告いたします。

【クラウドファンディング実行のきっかけ】

公益財団法人は、移行後も毎年監督官庁に、公益性や事業の継続性、財政の審査をされますが、当館は図書館事業以外に収益事業を持たないので、常に財政が厳しく、毎年赤字決算になりがちな点が課題でした。

そこで、少しでも収入を増やして運営を安定させるため、寄附金を広く募る事を検討していた矢先、松竹株式会社でソーシャルメディアを担当している社員に CF という方法を紹介されたのでした。それが、現在当館が利用している「購入型」の CF サイト [READYFOR](#) (レディーフォー) です。「購入型」とは、プロジェクトが成立すると、出資者に金銭以外のリターン、例えばサンクスメールやグッズなどがお礼の意味で渡されるタイプの支援金調達方法ですが、目標金額まで支援金が集まらず、プロジェクトが成立しなければ、実行者への支援も、出資者へのリターンも行われません。

READYFOR は、日本で初めて CF を事業

として採用したサイトで、当館に紹介された当時、立ち上げからまだ1年しか経っていませんでした。しかし、当初から障害者アスリート支援や東日本大震災の被災地支援を目的とした事業を中心に活動を広げており、时期的にもちょうど日本でもCFという言葉が少しずつ知られてきた頃でした。

当館のスタッフもCFについての知識が乏しく、READYFORのスタッフからプロジェクト紹介頁の構成（例えば、実行者が団体であっても、個人が自分のストーリーを語るようにプロジェクト内容を伝える方法など）を、一から教わりました。また、支援者からのメッセージやコメントには迅速かつ丁寧に対応するなど、インターネットを介するコミュニケーションだからこそ、人対人のやり取りが非常に重要であるとのアドバイスを受けました。

そして、平成24年9月3日、第一弾のプロジェクトがスタートしました。

【話題性で注目された第1弾プロジェクト】

■プロジェクト名：「[歌舞伎や『寅さん』、日本文化の宝箱を守る。](#)」

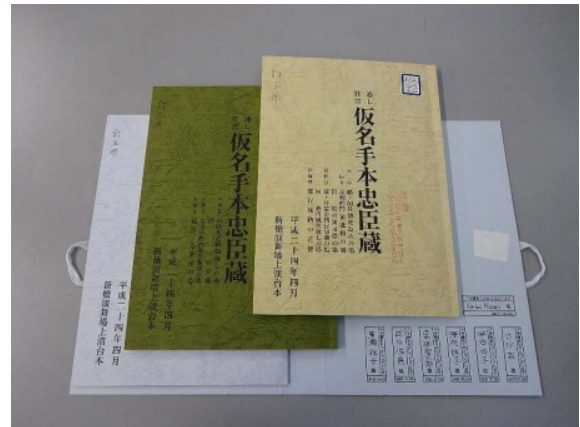
■実施期間：平成24年9月3日～10月23日（50日間）

■目標金額：200万円（平成24年度の運営資金の一部として）

■支援金額とリターンの設定

支援金額は3千円、5千円、1万円、3万円、5万円を設定し、リターンはそれぞれの支援金額に応じ、サンクスメール、当館のWebサイトへの支援者名の掲載、報告書の送付などのほか、金額ごとのグッズの提供も考えました。例えば、当館の所蔵資料の紹介も兼ねて、デザインに所蔵資料を使用したオリジナルポストカードを始め、1万円の支援に

は、当館所蔵の歌舞伎や映画台本のうち約180タイトルのリストからご希望の作品の台本カバー¹に支援者の名前を記載する権利をリターンに付けました。



支援者のお名前を入れた台本カバー

また、5万円の支援には、普段は職員しか入れない書庫を案内して資料も紹介する見学会に御招待することになりました。

プロジェクトタイトルに入れた「宝箱」という言葉は、打ち合わせに来たREADYFORのスタッフが、当館の書庫を見て「まるで宝箱のようですね！」と所蔵資料の貴重さを褒めて下さった所から取りました。この言葉を聞き、プロジェクトでも当館の資料を紹介し、「この宝箱を守りたい」と思って貰えれば、支援してくれる人が必ずいるはず、と思いを強くしました。

【情報の拡散】

CFの成否は、フェイスブック（以下、「FB」といいます。）などのソーシャルメディアを利用して支援募集を呼びかけ、情報を拡散することにかかっています。しかし当館は、ソーシャルメディアを利用していなかったため、松竹広報室の協力を得て、プロジェクト開始に合わせ、READYFORと当館連名で[プレスリリース](#)を流してもらいました。同時に、当館からも関連団体にメールや手紙等で通知をしました。また、当館のWebサイトはもちろ

¹台本保護のためにスタッフが手作りしている。

ん、台本などの当館所蔵資料に関心のある読者が見込める松竹の映画 FB「[シネマズ](#)」、歌舞伎公式サイト「[歌舞伎美人\(かぶきびと\)](#)」にも支援募集の記事を掲載してもらい、他にも [専門図書館協議会のブログ](#) やメルマガ、[日本シナリオ作家協会](#) の Web サイトなどにもお願いして、記事を掲載していただきました。

プレスリリースの効果と、専門図書館が CF を実行するという話題性もあって、「朝日新聞(夕刊)」「東京新聞」から取材を受けて記事が掲載されました。さらに開始約 20 日後、インターネットの情報配信サービス「[銀座経済新聞](#)」にも記事が掲載され、その日の夜には「[YAHOO!ニュース](#)」のトップに取り上げられました。その効果は大きく、当日中に目標額の 200 万円を突破する事ができました。

また、テレビでも複数の番組で取り上げられ、文化支援の新しい在り方として注目されました。

当館からもプロジェクトページにある「新着情報」で、プロジェクト実行中は週に 1・2 回、図書館の活動や館内展示の紹介、ニューズレター発行のお知らせや所蔵資料の紹介などを発信し続けました。また、プロジェクト成立後はリターン発送作業の進捗状況や見学会の報告、プロジェクト終了後は、月 2 回のペースで、展示紹介やニューズレター発行をお知らせしています。

CF を実行してみると、「まずこういう図書館があること、そして資料を保存するのにとても工夫していること、重要なことだと思います」「貴重な図書館だと思います。末永く運営できますように」「文化を守る大切な仕事」「いつか利用してみたい」など、日本各地か

ら応援のコメントを頂き、当館の存在と活動に意義を感じて支援して下さったことを知り、スタッフも大変な感銘を受けました。

また、新聞やテレビで取り上げられたことで、インターネットを利用しない方にも当館の支援募集が広まり、直接当館に寄附を寄せ下さる方もありました。その結果、272 人の支援者から、目標金額を大きく上回る 357 万 9 千円の支援金が寄せられ、第 1 弾のプロジェクトは無事成立しました。

【デジタル化に挑戦！第 2 弾プロジェクト】

■プロジェクト名：「[【第 2 弾】歌舞伎や映画、大切な日本の文化を次世代に残す。](#)」

■実施期間：平成 25 年 9 月 18 日～11 月 6 日(50 日間)

■目標金額：250 万円(平成 25 年度の運営資金の一部として 200 万円／雑誌『蒲田週報』²デジタル化の費用として 50 万円)

募集期間やリターンの内容は第 1 弾とほぼ同じでしたが、第 2 弾では目標金額を増やし、当館の運営資金に加え、所蔵資料のデジタル化の資金を募ったことが新しい点でした。



ボックスキャンによる『蒲田週報』のデジタル化

情報の発信やプレスリリースも第 1 弾と同じ規模で行いましたが、2 回目とあって新鮮味が無くなったのか、前回ほどマスコミに大

² 松竹キネマ蒲田撮影所の機関紙。当館では創刊号(大正 14 年 3 月 1 日号)から終刊の 262 号(昭和 6 年 7 月 12 日号)までをほぼ所蔵。松竹作品の紹介記事をはじめ、撮影状況や俳優情報などが細かく掲載され、当時の映画制作現場を知るための貴重な資料。

きく取り上げられなくなりました。それでも前回支援してくれた方一人一人にプロジェクト開始のお知らせメールを送るなど、地道な活動をすることで、リピーターを増やすことができました。

また、第1弾でも大きな力となった『歌舞伎美人』、『[チケット Web 松竹](#)』、日本俳優協会の『[歌舞伎 on the web](#)』など、歌舞伎関係のサイトやメルマガでの告知をお願いし、歌舞伎愛好家の支援を伸ばすことができました。結果 243 人の支援者から、目標金額を上回る 291 万円の支援金が寄せられ、当初の予算では諦めていた『蒲田週報』の脱酸性化処理も併せて行うことができました。業者による『蒲田週報』の修復、脱酸処理、デジタル化の作業はプロジェクトの「新着情報」や当館のニューズレターで、折々報告をし、支援者を中心とした一般利用者が普段目にする機会の無い作業を伝えることができました。

【アーカイブ公開計画！第3弾プロジェクト】

■プロジェクト名：「[【第3弾】日本文化の宝・歌舞伎や映画の記憶を未来につなぐ。](#)」

■実施期間：平成 26 年 9 月 9 日～10 月 29 日(50 日間)

■目標金額：280 万円(平成 26 年度の運営資金の一部として 200 万円／「芝居番付」5 千枚のデジタル化費用として 80 万円)

第2弾のプロジェクトを実行した頃から、デジタル化に積極的に取り組んでいる図書館としての認知度が上がり、他機関との共同研究の形ではありますが、当館の演劇・映画雑誌³や義太夫正本⁴の所蔵目録のデータベース化が実現するなど、2 年前までは、ほぼデ

ジタル化に縁がなかった当館に、外部からもデジタル化事業の声がかかるようになりました。

そんな中、第3弾のプロジェクトでは、当館所蔵の幕末から明治・大正・昭和初期までの演劇資料「芝居番付」⁵約 5 千枚全てのデジタル化とアーカイブ公開に取り組みました。

『芝居番付』は、あまり一般に知られていない資料ですが、プロジェクトを進めていく中で、どのような資料なのかを説明していき、当館の所蔵資料に興味を持ってもらうきっかけともしました。



九代目市川團十郎の『勤進帳』上演(明治 32 年 4 月歌舞伎座)を宣伝するための芝居番付

第3弾からは、前回まで松竹広報室に依頼していたプレスリリースを当館のスタッフが行うことになり、各社に送信の許可を取りながら、1 件ずつメールや FAX で送りました。前回までの支援者の方へ個別メールを送ることも、プロジェクト公開日から取りかかりました。そして、これまでも館内限定で掲示していた自作のポスターを、デジタル化の共同研究で御縁のできた他機関や関係者にもお願いをしてポスターの掲示をしてもらい、手作りのチラシも、これまで以上に配付しました。

³ 野上記念法政大学能楽研究所共同利用・共同研究拠点 能楽の国際・学際的研究拠点 2014 年度採択共同研究「演劇雑誌における能楽記事の調査研究」

第 43 回(平成 26 年度)三菱財団人文科学研究助成金「日本映画資料所在調査およびデータベースの構築」

⁴ 立命館大学アート・リサーチセンター開発及び開発「[松竹大谷図書館所蔵 義太夫正本 検索・閲覧システム](#)」

⁵ 芝居の演目、配役、場面の挿絵などが描かれた、今でいう演劇のポスターやチラシのような印刷物

また、館内でもスタッフがカウンターで出納業務の傍ら、来館者に丁寧に説明をしてチラシを渡す事で、支援や応援の輪が少しずつ広がっていきました。

このように第3弾では、スタッフ全員が意識を持って広報活動を行い、当初は伸び悩んだものの募集終了2日前に目標金額を達成する事ができました。結果、263人の支援者から、296万5千円の支援金が寄せられ、「芝居番付」のデジタル化も進めることができました。

【CFを実行して】

以上のように、CFを実行する事によって、本来の目的である運営費等の調達だけでなく、当館の存在を広く知ってもらうこともできました。最近では、築地観光のついでに当館に立ち寄る利用者や、友達連れでお気に入りの映画のシナリオを読みに来る若者の姿も見られるようになりました。また同時に、当館から情報発信を続けることで、当館独自の所蔵資料や活動の紹介をすることができ、結果としてより専門性の高い調査を行う利用者が増加し、お声掛けを受けてデジタル化事業へ参加する機会も増えてきました。

もちろん、メリットだけではありません。図書館の日常業務を行いながらCFの業務を行うことは、スタッフに大変負担が掛かります。また、CFを始めた当初は、運営資金の不足を広く宣伝することに、若干戸惑いもありました。

それでも、多くの方から実際に支援や応援コメントを頂き、当館の存在意義を認めてくださっている事が伝わってくるにつれ、スタッフの心の支えにもなり、当館での仕事に誇りを持って、より業務に積極的に取り組めるようになりました。

また、インターネットを介して始まった支

援ですが、支援者の方が折々立ち寄っては労いの言葉をかけて下さったり、地方公演のプログラムなどの寄贈資料を持ってきて下さったりと、実際に来館して、別の形で応援して下さる機会も増えました。

【戦後70年の今年、GHQ 検閲歌舞伎台本のデジタル化に取り組む第4弾、実行中】

そして10月現在、当館は第4弾プロジェクトを以下の通り立ち上げ、今まさに挑戦しています！



当館所蔵 GHQ 検閲歌舞伎台本の一部

■プロジェクト名：「[【第4弾】歌舞伎や映画、日本文化の歴史を後世に伝える。](#)」

■実施期間：平成27年9月8日～10月28日（50日間）

■目標金額：250万円(平成27年度の運営資金の一部として150万円/「GHQ 検閲歌舞伎台本」約300冊のデジタル化費用として100万円)

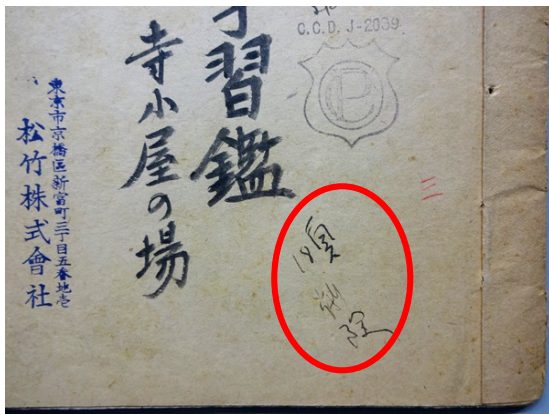


【第4弾】のリターン
台本の表紙デザインのオリジナル文庫本カバー

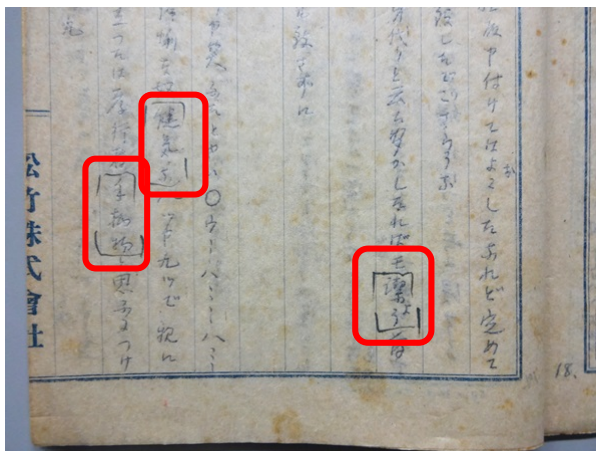
(それぞれ 奥:本物の台本/手前:文庫本カバー)

(むとう さちこ)

当館は、昭和 20 年から 24 年の約 4 年間に GHQ の傘下機関である民間検閲局により検閲を受けた 300 冊以上の演劇台本を所蔵しています。その表紙には、認可番号印、検閲通過印の他、削除頁などの書込がありますが、これまで内容については細かく検証されてこなかったため、今回デジタル化を進めることができれば、検閲による削除内容の考証も可能となり、当時の検閲状況をより詳しく知る手掛りとなるでしょう。この貴重な歴史的証拠のデジタル化を進めるため、是非、プロジェクトページを御覧いただき、広めていただければ幸いです。



『菅原伝授手習鑑 寺子屋』(昭和 22 年 5 月東京劇場上演)の検閲台本の表紙。外題の右に「CCP(検閲通過)印」が押され、その下に「18 頁削除」の書込がある。



18 頁の該当箇所。若君の身代わりとなった子供の死に様子が語られる場面で「潔よう」「健気な」「手柄物」と、その死を讀める単語が削除されている。

【各国在日図書室紹介】

韓国文化発信基地『韓国文化院』の 知の拠点、図書映像資料室

韓国文化院図書映像資料室 小田切祐一

はじめに ～韓国文化院紹介

[韓国文化院](#) は、世界各地に韓国文化を広報する事を目的として韓国政府が運営する文化広報機関で、現在 24 カ国に 28 カ所設置され活動をしております。日本国内には、東京と大阪の 2 カ所に設置され、資料室のほか、映画上映、芸術公演、各種講演会、美術展示会、韓国語スピーチ大会など、様々な分野での文化行事を開催しております。

東京の韓国文化院は、1979 年に池袋のサンシャインシティ内に開館致しました。その後、港区南麻布移転を経て、開館 30 周年を迎えた 2009 年 5 月、新宿区四谷に自社ビルとなる“Korea Center”を新築開業し、日本における韓国文化の発信基地として活動しております。建物は 8 階建てで、1 階・ギャラリー、2 階・ホール（300 席規模）、3 階・図書映像資料室、4 階・韓国伝統家屋、屋上庭園、セミナー室、5 階・中ホールで構成され、また韓国文化院の他に、東京韓国教育院、韓国観光公社、韓国コンテンツ振興院、国外所在文化財財団、韓国農水産食品流通公社の各事務所も入居しており、まさに韓国文化の総合拠点として活動しております。

韓国文化院の知の拠点、図書映像資料室

図書映像資料室は、1979 年の韓国文化院開館時から設置されている施設で、現在、図書約 26,500 冊、視聴覚資料約 3,500 種、新聞・雑誌類約 50 種の資料を取り揃え、全面開架

式でどなたでも閲覧・複写（有料）が可能です。貸出サービスも行っております（要会員登録・無料）。図書の内訳は、日本語図書が約 7,500 冊、韓国語図書が約 18,000 冊の割合になっています。蔵書構成は、韓国の宗教、民俗文化、芸術、語学、文学、歴史分野が中心になっております。当資料室の特徴の一つとして、所蔵図書が韓国十進分類法（KDC）によって分類、配架されていることが挙げられます。

韓国十進分類法 主類表	
000 総類	500 技術科学
100 哲学	600 芸術
200 宗教	700 語学
300 社会科学	800 文学
400 純粋科学	900 歴史

[日本十進分類法](#)（NDC）とは共通点も見られますが、異なる点も多くあります¹ので、このように KDC を使用する事で、日本の皆様に韓国の図書館システムを若干ながらご紹介できる貴重な機会になるのではないかと考えております。

映像資料は、約 2,000 タイトルのドラマ・映画の DVD を所蔵しており、視聴覚ブースで視聴が可能です。

当資料室の主な利用者は、韓国語を学習中の方、韓国文化への関心を持った方、さらには研究者の方まで幅広い層にわたっておりま

¹ そのため図書の登録作業において、韓国語図書については、韓国国立中央図書館の書誌データをそのまま使う事ができますが、日本語図書については、職員が一冊ずつ内容を把握し、該当する KDC 番号を付与する作業を行っております。

す。また、当資料室のある新宿区は、外国籍の住民の方の割合が区人口の1割を超える多国籍な街で、韓国籍の方も多数お住まいです。コリアタウンも立地する土地柄か、韓国系企業の駐在員やそのご家族も多く区内に居住されており、そのため、特に土曜日や夏休みなどを中心に、家族連れで当資料室を利用される方が非常に増えております。そういった利用者の需要に応えるべく、絵本や学習書などの児童図書も約1,500冊所蔵しており、大変高い利用率になっております。近年韓国の児童書出版が活発になっており、ボローニャ児童図書展等で各種賞を多数受賞するなど世界的にも高い評価を得ています。当資料室でも児童書コーナーを拡充させることで、韓国の児童書出版事情を日本の皆様にも知って頂けるのではないかと考えております。



人気のある児童書コーナー

電子資料サービス

韓国では、国立図書館から地域の公共図書館に至るまで、閲覧、複写、貸出等の電子図書館サービスが幅広く行われています。2009年には国立中央図書館内にデジタル図書館も開館し、国家レベルで資料の電子化をはじめとするデジタル事業に注力しています。当資料室でも、[韓国国立中央図書館](#)、[韓国国会図書館](#)の原文サービス（電子資料閲覧サービス）を提供しております。両図書館では、図書や論文等を電子化し、専用端末を使用して閲覧、複写（有料）ができるサービスを行っていま

す。当資料室では、それらの電子資料のうち韓国外での利用が許可された資料に限り、専用端末での閲覧、複写が可能になっており、研究者の方々より大変好評を頂いております。韓国では、図書館のみならず様々な機関が、あらゆる資料の電子化に取り組んでおり、有効に活用できるようになっています。ここで2つのサイトをご紹介します。

まず、国史編纂委員会が提供する[韓国史データベース](#)では、三国史記、高麗史、朝鮮王朝実録などの歴史的な文書から近現代史関連資料に至るまで、韓国を代表する歴史的資料が軒並みデータベース化され、オンライン上に公開されています。2つ目は、韓国古典翻訳院が提供する[韓国古典総合データベース](#)です。高麗史節要、茶山詩文集、栗谷全書など韓国を代表する古典120種が公開されています。古典資料の場合、現代韓国語訳、原文（漢文）、原書の画像の3種類の資料を読む事ができます。クリック一つで、必要な箇所が容易に閲覧できるレイアウトになっています。これらのサイトは、端末等の制限なく利用可能です。オンライン環境さえ整っていれば、このような歴史資料に好きな時に誰でも自由に接する事ができる状況になっています。

IT 強国と言われている韓国ですが、デジタル化の進展により、高次の情報源に容易に接する事ができるようになっており、様々な調査業務に役立っているとともに、さらに迅速かつ正確な調査ができるスキルが求められており、職員も日々研鑽に努めております。

さいごに

韓国文化に関心のある皆様のあらゆる知的要求に応えるべく、今後も時代の流れに合う様々なサービスを提供してまいりたいと考えております。皆様のご利用を心よりお待ちしております。

（おたぎり ゆういち）

<国立国会図書館からのお知らせ>

平成 27 年度特集展示「1945—終戦の前後、何を読み、何を記したか」のお知らせ



今年は終戦から 70 年の節目の年に当たります。70 年前、昭和 20 (1945) 年前半の日本は、第二次世界大戦での敗勢が極まり、本土決戦も叫ばれていました。春頃からは空襲で主だった都市が焦土と化し、極限状態に陥ります。しかし、夏に終戦を迎え、灯火管制が解かれ明るくなった町には、ついこの前まで敵性語であった英語が飛び交うようになりました。

そんな激動の中でも、本や雑誌は出版されていました。そこには一体どんなことが書かれていたのでしょうか。また、その時代を生きた人は、どんなことを書きとめていたのでしょうか。「玉音放送」が流れた 8 月 15 日を境に、その内容はどう変わったのでしょうか。それとも変わらなかったのでしょうか。

今回の展示会では、昭和 20 (1945) 年に出版された本や雑誌、そして政治家・軍人が記した日記や書簡を約 45 点 (※) 展示します。展示ケースの中に現れる「1945 年」を、是非ご覧ください。 ※展示替えを含めると合計で約 80 点

会場・日時

- 東京会場 (国立国会図書館 東京本館 新館ホール)
 - 2015 年 10 月 5 日 (月) ～ 11 月 2 日 (月)
9:30～19:00 (土曜日は 17:00 終了)
※日曜日・祝日・第 3 水曜日 (10 月 21 日 (水)) 休館
 - ※展示替え、展示箇所の変更を行います。
(前期) 10 月 5 日 (月) ～ 10 月 17 日 (土)
(後期) 10 月 19 日 (月) ～ 11 月 2 日 (月)
 - 入館手続きが必要です。展示観覧のみの場合は新館入口で「当日利用カード」の作成をお願いします。
15 歳以下で観覧ご希望の方は、事前に 03-3506-5260 tenji-kikaku@ndl.go.jp までお問い合わせください。

- 関西会場（国立国会図書館 関西館 大会議室）
 - 2015年 11月13日（金）～ 11月28日（土）
10:00～18:00
※日曜日・祝日・第3水曜日（11月18日（水））休館。
ただし、11月15日（日）は開催。
 - 展示観覧のみは入館手続き不要です。
- 詳細は[「展示会情報」のページ](#)へ

ネットでご覧いただける [国立国会図書館デジタルコレクション](#)、[電子展示会](#)から、今回の出展資料の一部をご紹介します。

- [青年修身公民書 本科 4年制用 巻3](#)～国立国会図書館デジタルコレクション
*昭和20年1月に刊行された修身の教科書です。

- [米軍投下ビラ](#)～電子展示会「史料にみる日本の近代」



左：本土も、既に米軍が陥落させた硫黄島、沖縄等と同じ運命にある、と脅す絵。米兵の足下にあるのは既に陥落した島々。右：おもて面で、空襲する都市を予告。避難を勧告している。

（東京前期は左、東京後期は右、関西では両方を展示します。また、これ以外のビラも展示します。）

- [吉田茂書簡](#)～電子展示会「史料にみる日本の近代」

*終戦後の解放感をつづったものです。

- [ローマ字・日本語會話](#)～国立国会図書館デジタルコレクション

*昭和20年10月に刊行された、アメリカ人向け日本語会話の本です。（英会話の本と展示替えを行います。）

- [憲法草案要綱 憲法研究会案](#)～電子展示会「日本国憲法の誕生」

*GHQ 草案に影響を与えたと言われています。（電子展示会で紹介しているものは保存状態が悪いため、特集展示では別の文書から出展しますが、内容は同じです。）



平成 27 年＜第 101 回＞全国図書館大会（東京）のお知らせ

(<http://jla-rally.info/tokyo101th/index.php/>)

開催期間 2015 年 10 月 15 日(木)～10 月 16 日(金)
開催地 東京都
開催会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京都渋谷区代々木神園町 3-1)
大会テーマ 「図書館は 地域の広場 生きる力」

会場と主な内容

第 1 日目 10 月 15 日(木)

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター
全体会、開会式、シンポジウム＝カルチャー棟大ホール
懇親・交流会＝国際交流棟レセプションホール

第 2 日目 10 月 16 日(金)

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟
分科会＝22 分科会
これからの図書館ネットワークのありかた(第 1 分科会)
図書館の自由と個人情報保護の現在を考える(第 11 分科会)
デジタル化のリスクに向き合う(第 15 分科会) 他

日 誌（平成 27 年 7 月～平成 27 年 9 月）

平成 27 年	7 月 7 日	平成 27 年度行政・司法各部門支部図書館特別研修 「図書館資料の保存―簡易補修」
	7 月 13 日	平成 27 年度第 1 回中央館・支部図書館協議会幹事会
	7 月 13 日	支部図書館長異動 金融庁図書館長 深澤 浩一（前 西尾 勲）
	7 月 14 日	「財務省新規転任者実務研修」での出張説明を実施
	7 月 27 日	平成 27 年度第 1 回中央館・支部図書館協議会
	7 月 31 日	支部図書館長異動 総務省図書館長 奈良 俊哉（前 炭田 寛祈） 経済産業省図書館長 相楽 希美（前 増永 明） 国土交通省図書館長 金子 英幸（前 中野 宏幸） 海上保安庁図書館長 上原 淳（前 一見 勝之）
	7 月 31 日	「財務省新規転任者実務研修」での出張説明を実施
	8 月 1 日	支部図書館長異動 環境省図書館長 松田 和久（前 富坂 隆史）
	8 月 4 日	支部図書館長異動 文部科学省図書館長 柳 孝（前 板倉 周一郎）
	8 月 6 日	支部図書館長異動 公正取引委員会図書館長 藤本 哲也（前 笠原 宏）
	8 月 7 日	支部図書館長異動 農林水産省図書館長 津垣 修一（前 吉井 巧）
	8 月 17 日	平成 27 年度行政・司法各部門支部図書館特別研修 「国会レファレンス課資料室・国会分館の概要説明及び見学」
	8 月 18 日	支部図書館長異動 消費者庁図書館長 坂田 進（前 長谷川 秀司）
	9 月 4 日	支部図書館長異動 警察庁図書館長 山本 仁（前 白川 靖浩）
	9 月 16 日	「気象庁平成 27 年度初任職員研修」での出張説明を実施

*****名称変更のお知らせ*****

支部図書館分館の名称が変更になりました。（2015 年 10 月 1 日付け）
 新名称：支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局つくば分館
 旧名称：支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局筑波事務所分館
 なお、住所、電話番号、英語名称は変更ありません。

国立国会図書館刊行物紹介（平成 27 年 7 月～平成 27 年 9 月）

当館 HP に公開されている刊行物の中から、平成 27 年 7 月～平成 27 年 9 月の間に公開された記事の一部を紹介します。

[『国立国会図書館月報』](#)

国立国会図書館の蔵書や各種サービスについて総合的に紹介する広報誌です。2004 年 4 月以降は PDF 形式でご覧いただけます。

- 次の時代に向けて 国際子ども図書館リニューアル ([652/653 号 \(2015 年 8/9 月\)](#))
- 東日本大震災アーカイブシンポジウム 4 年目の震災アーカイブの現状と今後の未来(世界)へ繋ぐために ([651 号 \(2015 年 7 月\)](#))
- ・ ([2015 年刊行分一覧](#))
- ・ ([2014 年刊行分一覧](#))

[『調査と情報』－Issue Brief－](#)

国政上の重要課題について、その背景・経緯・問題点等を簡潔にとりまとめた雑誌です。

- No.878 「[米英独仏の政治資金制度](#)」 (2015.9.29)
- No.877 「[リバースモーゲージの現状と課題－高齢化の進展と金融サービス－](#)」 (2015.9.25)
- No.876 「[木質バイオマスのエネルギー利用－現状と論点－](#)」 (2015.9.10)
- No.875 「[森林環境税－これまでの経緯と創設に向けた論点－](#)」 (2015.9.1)
- No.874 「[新たな日米防衛協力のための指針－その経緯と概要、論点－](#)」 (2015.8.25)
- No.873 「[個人番号による情報連携とセキュリティーマイナンバー制度の今後の展開について](#)」 (2015.8.18)
- No.872 「[欧米主要国議会の議事日程等決定手続](#)」 (2015.8.2)
- No.871 「[消防団と消防の広域化](#)」 (2015.8.4)
- No.870 「[火山防災対策の現状と見直し](#)」 (2015.7.21)
- No.869 「[諸外国における大学の授業料と奨学金](#)」 (2015.7.9)
- ・ ([2015 年刊行分一覧](#))
- ・ ([2014 年刊行分一覧](#))

[『外国の立法』](#)

諸外国の立法動向を簡潔にまとめています。季刊版と月刊版があります。

- 「[イギリスの 2015 年対テロリズム及び安全保障法－「イスラム国」台頭で変わるテロリズム対策－](#)」 (No.265 (2015 年 9 月：季刊版))
- 「[【アメリカ】人質返還に関する大統領命令と大統領政策指令](#)」 (No.264-2 (2015 年 8 月：月刊版))
- 「[【アメリカ】2015 年度国土安全保障省歳出予算法の成立](#)」 (No.264-1 (2015 年 7 月：月刊版))
- ・・・他

また、月刊版では、各国の立法情報をコンパクトにまとめた短信も掲載しています。

- ・ 2015 年 8 月：月刊版 [短信](#)
- ・ 2015 年 7 月：月刊版 [短信](#)
- ・ ([2015 年刊行分一覧](#))
- ・ ([2014 年刊行分一覧](#))

『[カレントアウェアネス](#)』

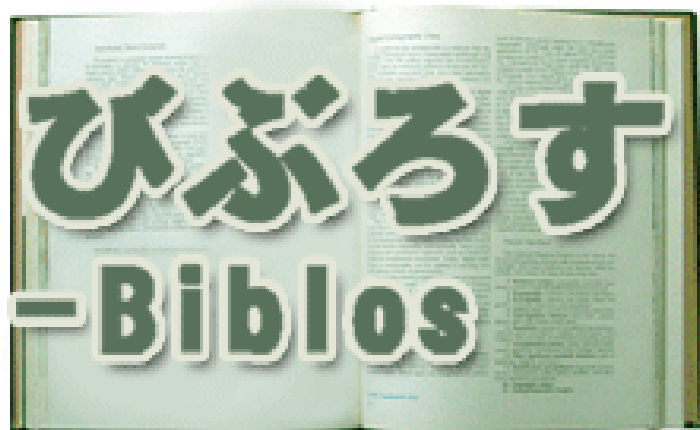
図書館及び図書館情報学における、国内外の近年の動向及びトピックスを解説・レビューする情報誌です。

「[神戸大学附属図書館「震災文庫」利用の現状と課題](#)」(No.325 (CA1853-CA1858) 2015.9.20)

・・・他

※※次号『びぶろす』71 号のお知らせ※※

2016 年 1 月発行予定です。



70号

平成27年10月

発行 / 国立国会図書館総務部

ISSN : 1344-8412

web版ではリンクをご活用いただけます

<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/biblos/>

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan